講壇点滴

一つになって、一つにされる

使徒言行録二章　四三～四七節

牧師　姜　徑　米

ペンテコステの出来事を語る二章には二つのポイントがあります。一つは、聖霊が降って教会が誕生したことです。もう一つは、その教会の伝道によって、新たな人々がそこに加わり始めたということです。教会が誕生するとは、伝道が始まることであり、それによって教会に新たな人々が加わり始めることです。二章の四七節の言葉が、そのことをはっきりと語っています。救われる人々が日々起こされ、教会の仲間に加えられていく、これが二章の結論です。

教会が教会として歩んでいるとは、このように、伝道がなされ、新たな人々が仲間に加えられていくということなのです。それは、神様のお働きによることです。主が、聖霊のお働きによって、救われる人々を起こし、教会が証しし伝える主イエス・キリストの福音を信じさせ、洗礼を受けて罪の赦しの恵みにあずかり、教会に加えられるようにしてくださったのです。

ここを読む上で大事な言葉があります。それは、「一つになって」ということです。四四節に、「信者たちは皆一つになって」とあります。四六節にも、「毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り」とあります。そして四七節にも、「主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」とあります。ここでは、最初の教会の人々が、「一つになって」歩んでいたこと、心を一つにして生きていたことが強調されているのです。聖霊によって生き生きと歩む教会において、そこに連なる人々は、一つになるのです。心を一つにするのです。そういう共同体であってこそ、そこに、日々新たに人々が加えられてくるのだと言うことができます。

最初の教会の人々は、み言葉を聞き、聖餐にあずかり、祈りつつ、分かち合いに生きていました。それらはどれも、形は違っても、今日の私たちにおいても実現可能なことです。聖霊のお働きを受けて、私たちも、このような信仰の共同体を作り上げていきたいのです。それを妨げているものがあるとすれば、それは私たちの、変わろうとしない心、変えられようとしない頑なな思いなのです。

教会が、生き生きとした信仰の共同体として一つになり、真実の分かち合いに生きていくならば、そのこと自体が人々にとっては、驚くべきしるしだし、奇跡となるのです。私たちが、使徒の教えをしっかり聞き、聖餐にあずかることを大切にし、主イエス・キリストの恵みを分かち合い、お互いの間での分かち合い、支え合いに真実に生きていくなら、教会は周囲の人々から、畏敬と尊敬、好意を寄せられるようになるのです。そして、神様はそのような群れに豊かに働き、仲間を増し加えてくださいます。私たちは主が新たに加えてくださる仲間を見出し、迎え入れるために、祈りを合わせ、互いに良いものを分かち合いつつ一つにされて歩んでいきたいと思います。

（八月二七日　公同礼拝）

九月講壇一覧

第一主日（九月三日）公同礼拝　高橋和人牧師
「父の愛する子」
詩　編　二・四～九
マタイ　一七・一～一三

第二主日（九月一〇日）公同礼拝
「イエス・キリストの名によって」　姜　徑米牧師
詩　編　一三〇・五～六
使徒言行録　三・一～一〇

第三主日（九月一七日）（召天者記念礼拝）　高橋和人牧師
「天に名を刻まれて」
詩編　二七・一～四
ルカ　一〇・一七～二四

第四主日（九月二四日）公同礼拝
「神の祝福を受ける」　姜　徑米牧師
創世記　二六・四
使徒言行録　三・一一～二六